

2018 年度活動計画

(ア) 活動の抱負

<会長>

新年会の挨拶でも述べたように、新春の報道で驚いたことが3つあった。

第一は、インド工科大学の卒業生を確保しようと多くの多国籍企業が押し寄せており、その年収が20万ドルといわれている。日本の大学生の初任給（約35,000ドル）の約6倍である。従来では考えられなかったことで、途上国の人達の一律低賃金というのは間違いだとわかった。日本の大学卒の人達も同じように、世界の企業からこのような大金で引き抜かれる時代がいつ来るのか、と思う。

第二の驚きは、人工知能（AI）が恐ろしいほど進歩しつつあることである。新聞・テレビによると、無人の自動運転車はもうすぐそこまで来ているようだ。AIを搭載したロボットや、人間に代わって仕事をするAIがどんどん増えそうである。人間に代わってAIやロボットが活躍するようになれば、人間の職が奪われるのか奪われないのか、という課題について、悲観論と楽観論が述べられている。途上国では若者の失業率が高いと言われているが、AIが簡単に導入されるようになれば、途上国の若者の失業率改善は一層困難になるのではないだろうか？他方で、日本の中小企業では後継者がいないために、廃業者が増えている。熟練技能者が持つ優れた技術が失われ、日本の国際競争力が危うくなることに危機感を持った。日本の急激な人口減少がこれに拍車をかけているそうである。

第三の驚きは、国際開発協力に関する話題や記事が殆ど無くなったことである。この分野の仕事には、社会も大学生も殆ど関心がなくなってしまったのだろうか？大学はグローバル人材の育成に熱心になっていて、どこの大学でも学生を海外に短期派遣することに積極的になっている。学生を数週間、数カ月海外に派遣したところで、学生がグローバル人材に育つことは不可能だが、一つだけ確かなことは、海外に派遣された大学生が自分の英語力の無さに驚き、「これではいかん！」と目覚めていることである。私がミャンマーでの海外研修に同行した、法政大学の学生達もそうであった。しかし、頼もしいことには、この学生達が2週間の海外研修から帰国後、見違えるようにゼミの勉強に熱心になったそうだ。問題意識が明確になり、より深く開発問題について考え、勉強するようになるそうである。

SRIDのキャリア開発事業の実績表からもわかるように、若い人達の中には将来の仕事として、国際開発協力分野を志向している人は少なくないように見える。経験豊かな新会員が増えているので、今後のSRID活動としてこのキャリア開発事業を大いに盛り立て、より多くの会員が若い人達の能力強化と進路助言に貢献して行けるようにしたい。残念ながら、SRID学生部の復活は容易ではないが、既存の国際協力学生団体は結構多く、また悩みを抱えているようである。今後、このような学生団体との連携を強化しながら、彼らに助言を与えることも、SRIDの新しい使命ではないかと思うようになった。更に、その一活動としてABEプログラムとの連携協力も役立つのではないかと考えられ、今後検討していきたい。（藤村）

<代表幹事>

2017年度は、懇談会、キャリア開発事業を通じて多くの会員、非会員の参加を得ることができた。また、ニューズレター、SRIDジャーナルの定期的な発行を継続することができ、こうした活動が新規会員の確保につながったと考えている。活動の場も、東京理科大学の理窓会倶楽部とJICA地球ひろばを活用することで、活動を効率的に行うことができた。懇談会の後のネットワーク活動（懇親会）もサロンの雰囲気維持に貢献していると考えます。

2018年度も、これら活動を継続し新たに作成したパンフレットも活用して新規会員の確保に努力していきたい。また、新規会員には会の活動に積極的な参加を働きかけ、会の新たな活力としていきたい。今年度は、昨年開催できなかったシンポジウムを開催し、会員の意見交換の場としていきたい。学生部については、無理に再建するのではなく、いくつかの大学にすでにある国際開発や国際交流を行っている学生団体との連携を図っていく。（神田）

（イ）活動方針

<総務>

- ・ 毎月1回幹事会を開催し、議事録を会員に配信する。
- ・ 8月に暑気払いを兼ねたイベント、1月に新年会を開催し、会員間の親睦を図る。
- ・ 懇談会でのパンフレット配布などにより、会員の勧誘に力を入れる。（山下）

<広報>

- ・ 定期的にHPを更新し、年に2回ジャーナルを発行する。
- ・ 各種メディアによりSRID活動の全体的プロモーションを行う。
- ・ SRIDのパンフレット・案内書の印刷、幹事の名刺作成などを行う。（山岡）

<ニューズレター>

幹事会の協力を得て、年8回程度の発行を目指す。「自論公論」「旅の千夜一夜物語」「イベントの案内・報告」などの他、会員相互の情報交換や近況報告を兼ねて、より多くの会員に投稿を呼びかける。（山下）

<懇談会>

- ・ 国際開発のベテランのみならず、国際開発に興味のある学生や、すでに国際開発分野で働いていてさらなるステップアップを目指す若い世代などの幅広い参加者を対象に、国際開発に関する時宜を得たテーマのついてその分野のエキスパートに講演を頂く。
- ・ 講演テーマは登壇可能な講演者に合わせてフレキシブルに選定する。
- ・ 懇談会とその後のネットワーク懇親会を通じて、キャリア開発事業を含めたSRID活動に対する非会員参加者の認知度を高め、キャリア開発事業への申込者増やSRID新規会員増に繋げる。
- ・ 昨年度同様合計8回程度の開催を目指す。（小林文）

<シンポジウム>

2017年度はシンポジウムの開催ができなかった。他方、2017年度は今後の援助の方向性が見えてきた年でもあった。「SDGsの主流化」、「中国の台頭」、「TICAD VII」、などのテーマ、中東やアフリカの混乱に伴う平和構築、などの課題も依然として重要であろう。総会での議論を通じてシンポジウムのテーマを考えていきたい。(神田)

<他団体との連携推進>

2018年度はキャリア開発事業の活動助成金を支給した全国国際協力学生団体連盟(UYIC)、MISなどの学生団体や、ABE Initiative 留学生などとの連携を強化する。(湊)

<SRID ジャーナル>

- ・ 2018年度は、前年に引き続き、藤村建夫編集委員長以下、浅沼信爾、高橋一生、福田幸正、湊直信、山岡和純の6名の委員が企画・編集を担当し、中島千秋会員が協力して、7月に第15号、1月に第16号を発行する予定である。特集は編集委員会で決定するが、できるだけ国際開発の最前線のトピックを選びたい。
- ・ 2018年度は、アメリカのトランプ政権の予測不可能な政策に惑わされることなく、国際社会の変容を分析しながら、国際開発協力分野の重要課題を取り上げていきたい。ターゲットグループとしては、国際開発を学習している大学院生や研究者・実務者とする。これまで読者からの投稿は全くなかったので、今年は読者からの投稿を積極的に呼びかけたい。
- ・ 現在の純外部配信者数は290人なので、これを350人まで増加させたい。この関連で、大学院生のゼミや学生団体のグループ活動を紹介することも考えたい。(藤村)

<サロン>

・三上サロン

主宰者である三上会員の都合を調整しながら、年1回を目途に開催する。(神田)

・サロン・エカポール

2018年度は、国際開発のフロンティアで活躍されているプロフェッショナルを招き、開発問題のホットイシューを中心に、最前線の新鮮な話題を提供してもらうことにしている。ホストとゲストの都合で定期的を開催することは難しいが、年に2~3回開催したい。また、他の関連するネットワークの若者との合同サロンも検討する。(藤村)

(ウ) キャリア開発事業の本格実施の継続

- ・ キャリア開発事業本格実施2年目を迎えるにあたり、本事業とSRIDのコア活動との連携をさらに進める。具体的にはキャリア開発塾講師によるSRIDジャーナル、SRIDニューズレターへの寄稿(各号への講師による寄稿)、SRID懇談会との連携(講師による講演)を図り、こうした活動についての国連フォーラム、SNSでの周知がキャリア開発事業の対外的な認知度の向上につながるよう努力する。
- ・ 昨年度と同様に活発な活動を目指すものとし、出張講座については20件、能力開発・向

上研修については 5 件、学生、若手国際機関職員へのカウンセリング・支援については 20 件、学生団体に対する助成については 1 件を新年度の活動目標とする。(中沢)